

俳句

水温む

萩の皿鴛餅の粉のみどり

釣釜や茶の香の立ちしにじりぐち

釣釜や羊羹添えし茶を点てる

釣釜やいつか止みゐし雨の音

動かざる動きの水も水温む

木々朗

弥生 雑詠 花花花と春嵐

細田安治

春一番 河津さくらも 力尽き

花哀れ 鳥につつかれ 陽のめ見ず

春嵐 吹かれて波打つ 春の木々

花々は 遠めとちかめ どちらかと

花びらや 風に降参 こうべたれ

流れても 花びらここにと 存在感



釣窯